

日韓の新聞からみた共通外来語の使用実態について

-計量的・文法的側面から-

林廷修*

〈 Abstract 〉

A Study on the usage of common loanwords in Japanese and Korean newspapers: From the quantitative and grammatical perspectives

This paper examines the usage of common loanwords in Japanese and Korean language systems in terms of the quantitative and grammatical perspectives. The findings are as follows:

(1) From the quantitative perspective, there is no difference in the actual total usage for the loanwords that exist in both Japanese and Korean. However, an observation of the individual loanwords reveals that Korean shows a higher rate in top-frequency loanwords. Top 30 loanwords account for 45% in Korean, and 33% in Japanese.

(2) From the grammatical perspective, it is a common feature in both languages that most common loanwords are mainly used as nouns, and the usage becomes lower in the order of: verbs > nominal adjectives (adjectives for Korean) > adverbs. However, there is a significant difference observed between the two languages in the usage proportion: that is, the grammatical status of a loanword may be changed when adopted to these languages and in Japanese twice as many loanwords are used in multiple word classes than in Korean, reflecting the fact that verbs in Japanese can be derived from nouns more easily than in Korean.

(3) As a result of comparing the loanwords that are derived to verbs in only one language, either Japanese or Korean, it was revealed that in Japanese, most loanwords can be verbalized by attaching suru 'do' whereas in Korean, loanwords can be verbalized by attaching verbalization markers other than hada 'do'. From this result, it can be said that the two languages have different ways of expressing things: to be more specific, there is a higher tendency to use loanwords as nouns in Korean than in Japanese.

Field : Morphology

Keywords : Loanwords, Newspapers, Frequency of use, Word class

1. はじめに

本稿では、日本語と韓国語の各言語体系における外来語の受け入れ方を解明するに先立ち、新聞に見られる定着外来語¹⁾の使用実態を計量と文法という二つの側面から明らかにする。外来語は既存の言語

* 筑波大学大学院 人文社会科学研究所 一貫制博士過程

1) 厳密に言えば、日本語と韓国語における外来語の定義や分類の仕方はそれぞれの研究によって多少異なる

にはない新しい概念やものごとなどを表現するため、諸言語の中に受容されている(飯野ほか2003)。これはどの言語にも見られる普遍的な現象である。日本語と韓国語は、いずれの言語も名詞の形として外来語を受容し、その後ろに各言語に必要な語尾や接辞を付着するということが言われてきた(古・戸2008、堀江・パルデジ2009)。しかし、外来語によっては使い方が様々であり、その体系が明確になっているとは言い難い。また、これから新しく入ってくる外来語に対処するためにも、各言語における外来語の使用実態を深く考察する必要がある。

外来語の受容や品詞性について考察した従来の研究には、金(2007)、梁(2008)、北澤(2012)などがある。しかし、狭い範囲の一部に限られた外来語を対象とした研究が多く、品詞の派生というところまでは詳しく論じられていない。また、金(2007)、梁(2008)で指摘されているように、両言語における外来語を対照的に捉えた研究はまだ不十分である。そこで、言語的類似性を多く有する日韓の両言語を対象とし、外来語受容の実態を解明することは、各言語ならではの共通点や相違点を理解できる点で大変意義のあることであると考えられる。そのためにはまず、外来語使用の現状を把握することが不可欠である。

本稿の構成は次の通りである。2節では、ここで扱う調査資料と調査方法について述べる。3節では計量的側面からみた日韓外来語の共通点と相違点を検討し、4節では文法的側面からみた日韓外来語の共通点と相違点を検討する。最後に、5節では本稿の結論と今後の課題について述べる。

2. 調査資料及び調査方法

2.1 調査資料

本稿では、新聞における外来語が含まれている用例を抽出し、計量と文法の側面から日韓対照を行う。そのためには、対象となる外来語をリスト化する必要がある、国語辞書に収録されている外来語を用いることとした。新聞に出現するすべての外来語を対象とすることが望ましいが、対象とする新聞記事が量的に膨大であること、また国語辞書に収録されている外来語は定着した外来語であると言えることから、国語辞書に収録されている日韓共通の外来語を対象とする。ここでは、日本の『明鏡国語辞典』(大修館書店、2002年、71,510語)と、韓国の『연세 한국어 사전』(두산동아, 1998年、53,354語)を使用した²⁾。続いて新聞を使用した理由は、抽出した定着外来語の実際の使用実態を調べるためである。新聞は小説や雑誌のような他のジャンルに比べ、規範性が高いと考えられる点で実態調査のた

ものの、漢語が基本的に外来語とは別扱いされるという点では共通している。このことから、本稿でも多くの研究で扱っている通り、「漢語以外の借用語」を外来語と見なす。そのなかには、和製外来語と韓製外来語、そして混種語も含める。ただし、近代中国由来のシューマイ(焼売)、ギョーザ(餃子)のようなもの(23例)は考察対象から除外することとする。

2) データの規模や質のバランスを合わせるため、日本と韓国でそれぞれ出版されている国語辞書を調べたが、出版年度や収録語数に多少の違いはあるものの、この二つの辞書が市販の辞書のうち、出版年度と収録語数の差が少ない小型辞書であるため、これらを用いることとした。また、辞書の編集方針も確認したところ、日常生活で頻繁に使用される語を載せている点、学校文法を基準にした用語と品詞を提示している点で類似していると判断した。更に、本稿では辞書に収録されている外来語を対象に新聞での使用実態も調査しようとするが、국립국어원이公開している最新の新聞データが2001~2003年に限られているため、辞書もその時期に近いものを選択した。

めの資料として選定した。新聞は日本の『毎日新聞(CD-ROM)』と、韓国の국립국어원에서公開されている『동아일보』(2001~2003年、いずれも全紙面)を使用した³⁾。

2.2 調査方法

第一に、調査対象となる外来語の選定のため、日本と韓国の国語辞書における全体の外来語から共通外来語をそれぞれ抽出した(日本語1,383語、韓国語1,294語)⁴⁾。ここで共通の外来語を抽出する際、次の2点を考慮した。まず、同一概念について両言語とも同じ外来語を用いて表現する場合にはそれらの外来語をそのまま抽出した(例:メモと메모)。次に、同一概念についてそれぞれ異なる外来語で表現する場合(例:ハイヤーと콜택시)、あるいは一方の言語にのみ複数の外来語が存在する場合(例:ガーゼと가제, 거즈)も、それぞれの外来語をそのまま抽出した。日本語1,383語、韓国語1,294語で両者の数が異なるのは、後者のように必ずしも一対一に対応しない場合があるためである。

第二に、国語辞書で得られた日韓共通外来語を『毎日新聞(CD-ROM)』と『동아일보』⁵⁾でそれぞれ検索し、外来語を含む例文を抽出した。

第三に、文法的側面から外来語の持つ品詞性を把握するため、形態素解析⁶⁾に基づき、抽出した用例における外来語の品詞を判断した。単に形態素解析をただけでは語幹となる外来語の品詞のほとんどが名詞となるため、本稿では外来語とその後続語の品詞を考慮することで語幹となる外来語が実際にどの用法として出現しているか最終的な判断を下した。以上の調査方法を簡単にまとめると、〈図1〉のようになる。

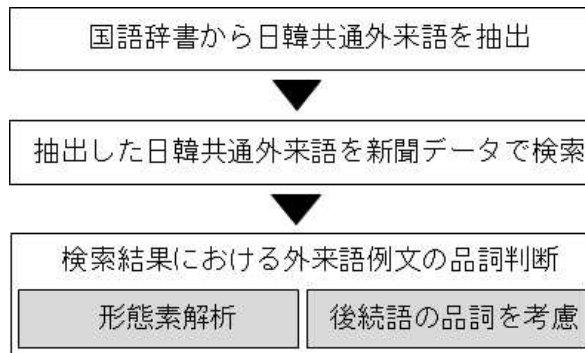
以下では品詞判断における一部の例を挙げる。(1)(2)はそれぞれ「動詞」と「形容動詞」として使用された日本語の例であり、(3)(4)はそれぞれ「동사」と「형용사」として使用された韓国語の例である。ただし、名詞に「化」を付けて動詞化しているもの(例:プロ化した, 프로화되다)や、動詞を作る際の基本的なマーカでないもの(例:다운받다)は調査対象から除外した。

3) 昔のデータではあるが、無料公開されていて比較的簡単に調査できる韓国の新聞はこれ以外見当らなかつた。2000~2013年までの新聞をデータ化した「Trends21코퍼스(<http://corpus.korea.ac.kr/>)」も無料公開はされているが、調査結果の保存ができないという問題があった。このように、調査に使用可能な最新の新聞データがないため、現在執筆者自ら日韓の2018年度の新聞をデータ化する作業を行っている。

4) 日韓の両辞書から得られたすべての外来語は日本語7,132語、韓国語1,583語である。ここで調査対象を日韓共通外来語に限定した理由は、使用されている外来語種類の違いによる影響を排除するためである。両言語で共通的に使われている外来語の使用実態の違いを明らかにすることが目的であるため、対象辞書における外来語の数の違いによる影響はほぼないと判断される。

5) 『毎日新聞』が173,597,815字、『동아일보』が6,191,006字であり、両新聞の規模が大きく異なるために『毎日新聞』からランダムサンプリングし、同程度の規模に合わせた。その際、すべての例文からランダムで162,500行を抽出した時、50回抽出の平均文字数が6,178,380字となり、韓国の新聞と同程度の規模になることが確認できた。また、サンプリングによる各外来語の出現頻度に差があると、分析結果の一貫性も保たれない可能性があるため、その確認も行った。その結果、50回のサンプルにおける出現頻度と全データにおける出現頻度に大きな差はなく、すべての文を対象とした場合の出現頻度とも差が見られなかった。このことから、ランダムサンプリングが全体標本を代表することが可能と判断し、1回のランダムサンプリングからの結果(6,189,027字)に基づいた。更に、規模も完全には一致していないため、出現頻度を直接比較することはせず、100万字出現頻度に換算した。

6) 形態素解析にはMeCab(日本語)とMeCab-ko(韓国語)及びそのPythonのバインディングであるMeCab-Pythonを使用した。また、外来語を対象としていることを考慮し、辞書としてMeCab-ipadic-NEologd3を使用した。



<図1> 本稿の調査フロー図

- (1) (省略) 守備専門のリベロとして28日に開幕戦デビューする予定。
 (名詞-サ変接続) (動詞-自立)
 (2001年10月16日、毎日新聞)
- (2) 名前の通りスマートなクルマだ。
 (名詞-形容動詞語幹) (助動詞) (2001年12月20日、毎日新聞)
- (3) 실제 미국기술연구소가 디자인하고 개발한 신타페는 미국시장에서 큰 성공을 거두고 있다.
 (一般名詞) (動詞派生接尾辞) (2003年09月09日、동아일보)
- (4) (생략) 모던한 디자인의 트리에는 다양한 색상의 전구를 고른다.
 (一般名詞) (形容詞派生接尾辞) (2000年12月14日、동아일보)

3. 計量的側面からみた日韓外来語の特徴

ここでは前述した通り、計量的側面からみた日韓共通外来語の共通点と相違点について検討を試みる。特に日韓それぞれの新聞データにおける外来語の総出現頻度と、個別外来語の出現頻度について検討する。

3.1 日韓共通外来語の総出現頻度

まず、日本語と韓国語の両言語における対象外来語数と出現頻度について分析した。これらをまとめたものが<表1>である。新聞における実際の調査に先立ち、両言語に定着した外来語の抽出のため国語辞書から抜き出した外来語は、この表から分かるように日本語1,383語、韓国語1,294語であった。これらの外来語が新聞においても実際に使われている割合は、日本語76.4%(異なり1,056語、延べ37,198語)、韓国語74.5%(異なり964語、延べ38,913)であり、大きな差は見られなかった。

また、外来語使用における総語数からの違いを見るため、100万字当りの出現頻度に換算した出現頻度⁷⁾を比較した。調査対象を新聞に出現した日韓共通外来語に限定した(異なりは両言語とも855語、延べは日本語33,953語、韓国語37,778語)場合、日本語が5,486語、韓国語が6,102語で韓国語が相対的に高いものの、この場合も両者に大きな差異は認められなかった。

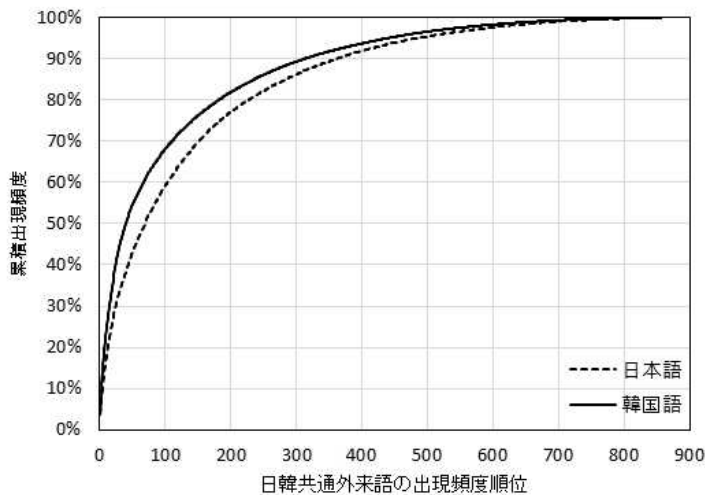
7) 100万字当りの出現頻度は、出現頻度×1,000,000/新聞データの総文字数で求めた。

〈表1〉 日韓両言語における対象外来語数と出現頻度

区分		日本語	韓国語
新聞データの総文字数		6,189,027	6,191,006
検索対象の外来語数		1,383	1,294
新聞に出現した 全体外来語	異なり語数	1,056	964
	延べ語数	37,198	38,913
100万字当り出現頻度		6,010	6,285
両国新聞に共通の に出現した外来語	異なり語数	855	855
	延べ語数	33,953	37,778
	100万字当り出現頻度	5,486	6,102

3.2 個別外来語の出現頻度

続いて、新聞に出現した日韓共通外来語の使用傾向について検討する。〈図2〉は、日韓共通外来語の全体出現頻度を100とした場合、出現頻度の高いものから低いものまでの累積出現頻度を示したものである。両言語を比較すると、全体の出現頻度にはあまり差がないものの、実線と点線の間にひらきがあることが分かる。出現頻度上位100の場合について見ると、日本語約6割、韓国語約7割で両言語の間に差がある。このことから、共通外来語に限り、日本語においては外来語の出現頻度の偏りが小さいのに対し、韓国語においては外来語の出現頻度の偏りが比較的大きいという様子が窺える。



〈図2〉 新聞に出現した日韓共通外来語の累積出現頻度

〈表2〉は、〈図2〉のうち100万字当りの出現頻度が高い上位30個の外来語を日本語と韓国語とで整理したものである。まず、合計の部分を見ると分かるように、出現した外来語の全体に占める上位30個の割合は日本語が33.4%、韓国語が44.5%であり、両者に約1.3倍程度の隔たりが認められる。すなわち、先程述べたように日本語における外来語は満遍なく使用されるのに対し、韓国語における外来語は特定の外来語のみが多く使用されるという、外来語使用実態の差が全体的な傾向として見受けられる。

次に、〈表2〉に示されている個別外来語の出現頻度に焦点を当てると、上位の外来語のなかでも約半

分に近いもの(13語)が日韓両言語で共通している。表のなかの網掛けされた部分がそれに当り、具体例としては「チーム」「テロ」「グループ」などが挙げられる。また、日本語の特徴としては、韓国語の「달리」「포인트」に比べて「メートル」「ドル」「ポイント」など、いわゆる助数詞に含まれるものが多く表れていることが挙げられる。ここで、韓国語の助数詞が上位にあまり含まれない理由としては、韓国語では基本的にローマ字で表記する傾向があることに起因していると考えられる⁸⁾。

<表2> 新聞に出現した日韓共通外来語の出現頻度上位30

順位	日本語	総計	韓国語	総計
1	メートル	1213	팀	1642
2	チーム	807	인터넷	1326
3	テロ	697	달리	1294
4	ドル	551	아파트	992
5	ポイント	539	프로	749
6	テレビ	535	그룹	734
7	グループ	497	게임	677
8	センター	426	카드	632
9	システム	404	서비스	602
10	リーグ	392	시즌	572
11	トップ	389	유럽	522
12	ホテル	339	시스템	495
13	サービス	325	리그	467
14	スタート	321	프로그램	446
15	テーマ	317	올림픽	422
16	メンバー	308	센터	420
17	ケース	307	브랜드	416
18	メディア	276	컴퓨터	415
19	ファン	264	디지털	405
20	インターネット	256	테러	368
21	ビル	242	호텔	365
22	クラブ	234	홈런	362
23	データ	229	모델	356
24	スポーツ	225	이미지	351
25	ミス	222	골	340
26	メール	218	골프	326
27	プロ	215	포인트	306
28	セット	205	스포츠	294
29	シリーズ	200	디자인	267
30	プレー	192	마케팅	264
合計		11,345 (33.4%)		16,827 (44.5%)

■:日本語と韓国語の両方に見られる外来語

8) 강(2003:141-144)では、新聞社の編集方針によりある程度の違いはあるが、いくつかの新聞を調べたところ「kg」「cm」「mm」のようなものはローマ字で表記されており、「매릴」「달리」のようなものは韓国語で表記されていると言及している。

4. 文法的側面からみた日韓外来語の特徴

以下では、文法的側面からみた日韓共通外来語の共通点と相違点について検討を試みる。最初に、日韓両新聞に見られる外来語の文中で果たす機能を見るため、品詞について考察を行う。次に、日韓共通外来語のうち、動詞派生に重点をおいて外来語の品詞における違いを考察する。

4.1 新聞における日韓共通外来語の品詞性

〈表3〉は各国の新聞から抽出した外来語を、形態素解析に基づいた品詞判断を行い、品詞別の割合をまとめたものである。同じ外来語が複数の品詞として使用されている場合には、該当する品詞のすべてをカウントした結果である。ただし、日本語は「形容動詞」と「形容詞」の二つに分かれるのに対し、韓国語は「형용사」という一つの範疇しか持たない。韓国語の「형용사」は日本語の「形容動詞」に概ね対応するとされているため⁹⁾、以下では日本語の「形容動詞」と韓国語の「형용사」を同じ範疇として扱うこととする。下記の〈表3〉に韓国語の「形容詞」が空欄になっているのはそのためである。また、単なる用語の違いである日本語の「感動詞」と韓国語の「감탄사」は、便宜上「感動詞」に統一する。

〈表3〉 新聞における日韓共通外来語の品詞別割合(延べ語数)

区分	日本語		韓国語	
	延べ語数	出現頻度	延べ語数	出現頻度
名詞	854 (90.1)	32,933 (97.0)	855 (94.1)	37,505 (99.3)
動詞	80 (8.4)	991 (2.9)	48 (5.3)	258 (0.7)
形動	10 (1.1)	22 (0.1)	4 (0.4)	11 (0.0)
形容詞	2 (0.2)	2 (0.0)		
副詞	2 (0.2)	5 (0.0)	1 (0.1)	1 (0.0)
感動詞	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.1)	3 (0.0)
合計	948 (100.0)	33,953 (100.0)	909 (100.0)	37,778 (100.0)

()の値は、全体の中の割合を示す。

〈表3〉における延べ語数は、一つの外来語が一つの品詞として使用された場合に一つとして数え、一つの外来語が二つの品詞として使用された場合には二つとして数えたものを意味する。また、出現頻度とは新聞に使用されたすべての外来語数を意味する。ここで延べ語数を基準とした表を最初に提示するのは、外来語品詞性の全体的な傾向を掴むためである。各言語の左側に注目すると、品詞別の割合に多少の違いはあるものの、いずれの言語も「名詞」「動詞」「形容動詞(韓国語は형용사)」の順に少なくなる点で共通している。ところが、この数値は新聞における実際の出現頻度に基づいた議論ではないため、実際の出現用例数を考慮して示したのが右側の出現頻度における割合である。その結果を見ると、この場合でも全体的な結果に変わりはなく、両言語間に大差は見られない。

次に、日韓共通外来語がどのように派生して使われるのかについて詳しく考察する。一つの外来語が一つの品詞でのみ用いられる場合もあれば、いくつかの品詞に跨って用いられる場合もあるためである。そのため、以下の〈表4〉では語幹を基準として一つの語幹に品詞が一つのを「単独」、一つの語幹に品詞が二つのを「二重」、一つの語幹に品詞が三つのを「三重」に区分した。その結果を〈表4〉において示す。

9) 詳しいことは、号(2005:145)を参照されたい。

まず、既に多くの研究(森岡1985、呉2013など)で指摘されているように「名詞」単独として使用される外来語が多いことは否定できないが、韓国語においてその割合がより高いことが見て取れる。次に、両言語とも「名・動」「名・形動」として使用される点では同じであるが、日本語のほうが韓国語よりも約2倍程度近く高い点で目立つ。これは、日本語における外来語が韓国語における外来語より多様な用法に派生していることを示唆していると言える。また、ほんのわずかであるが、日本語は「名・動・形」「名・形動・副」のパターンが、韓国語は「名・感」「名・形動・副」のパターンが見られた。紙面の都合によりパターン別の具体例を全部列挙することはできないが、用例数の少ないパターンに限って挙げると次の(5)~(7)のようになる。

<表4> 新聞における日韓共通外来語の品詞別割合(異なり語数)

区分	品詞	日本語	韓国語
単独	名詞	765 (89.5)	802 (93.8)
	動詞	1 (0.1)	0 (0.0)
二重	名・動	77 (9.0)	48 (5.6)
	名・形動	8 (0.9)	3 (0.4)
	名・感	0 (0.0)	1 (0.1)
三重	名・動・形	2 (0.2)	0 (0.0)
	名・形動・副	2 (0.2)	1 (0.1)
合計		855 (100.0)	855 (100.0)

()の値は、全体の中の割合を示す。

【単独】の場合

- ・日本語における「動詞」の例 : モンターージュ
- (5) 美女5人モンターージュしたへんな顔 (2001年09月01日、毎日新聞)

【二重】の場合

- ・日本語における「名・形動」の例 : ニュース、リーダー、ストレート、クラシック、オリジナル、ポップ、リベラル、ドライ
- ・韓国語における「名・形動」の例 : 캐주얼, 유머, 스트레이트
- (6) '텔리 스파이스'의 5집이 '스트레이트(직선)'로 바뀐 이유도 그 열정 덕분이다. (2003年02月09日、동아일보)
- ・韓国語における「名・感」の例 : 파이팅

【三重】の場合

- ・日本語における「名・動・形」の例 : イメージ、コントロール
- ・日本語における「名・形動・副」の例 : カジュアル、コンパクト
- (7) 写真の女の子もワークパンツにTシャツを重ねてカジュアルに着こなしている。 (2002年09月28日、毎日新聞)
- ・韓国語における「名・形動・副」の例 : 클래식

4.2 日韓共通外来語の動詞派生の比較

続いて、上記の表から日本語における動詞の割合が韓国語より高いことから、同一外来語の全体用例

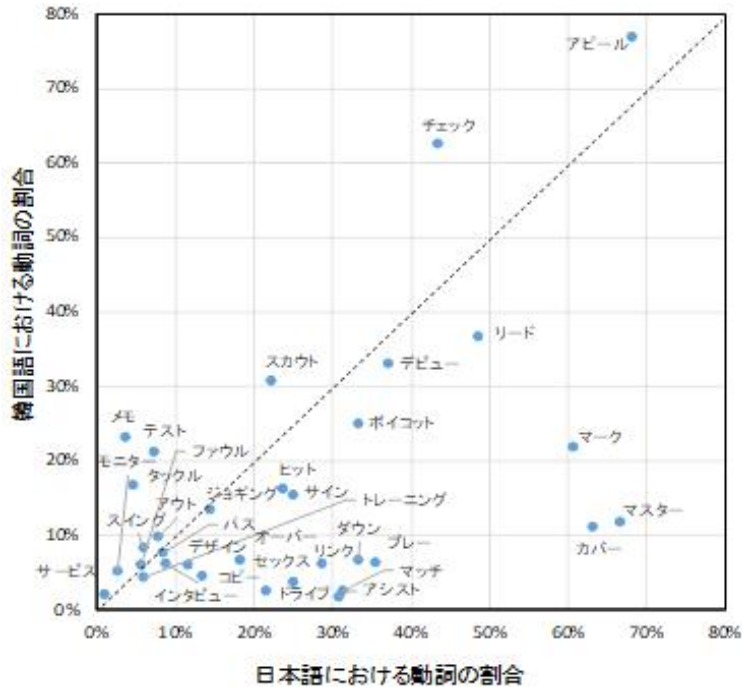
数に対する「名・動」パターンの派生の割合を中心に更なる比較を行った。ここで対象となる外来語は、新聞に出現した日韓共通外来語のなかで「名詞」であり、且ついずれかの言語において「動詞」への派生が見られる外来語である。それを整理したのが、〈表5〉である。表から分かるように、両言語とも動詞派生が可能な外来語と、日本語でのみ動詞派生が可能な外来語、そして韓国語でのみ動詞派生が可能な外来語の三つに分類できる。

〈表5〉 新聞における日韓共通外来語の「動詞」派生への比較

区分	日本語	韓国語
日韓両方派生	33 (42.9)	33 (68.8)
日本語のみ派生	44 (57.1)	
韓国語のみ派生		15 (31.2)
合計	77 (100.0)	48 (100.0)

()の値は、全体の中の割合を示す。

最初に、両言語とも動詞派生可能な外来語(33語)の使用傾向を〈図3〉に示す。同じ外来語において動詞として使用されている割合を見ると、ほとんどの外来語において、日本語のほうの割合が高いことが確認できる。このことから、日本語における外来語の名詞は動詞としても柔軟に使用できると解釈することができる。日本語において約5割以上が動詞として使用されるものには、「アピール」「マスター」「カバー」「マーク」がある。それに対し、韓国語において約5割以上が動詞として使用されるものには、「어필」と「채크」の二つしか挙げられない。言い換えると、両言語において動詞として使用されている外来語であっても、日本語では名詞から動詞への派生が実際に多く見られるのに対し、韓国語ではそれが相対的に少ないということである。一方、両言語において名詞としても動詞としてもほぼ均等に使用される外来語としては、「サービス」「パス」「ファウル」「ジョギング」が挙げられる。



〈図3〉 日韓共通外来語における名詞から動詞派生の割合

次に〈表5〉でもう一つ特徴的なのは、日本語においてのみ動詞派生可能な外来語が約57%である一方、韓国語においてのみ動詞派生可能な外来語は約31%であるということが挙げられる。そこで、日本語でのみ動詞派生が可能な外来語(44語)と、韓国語でのみ動詞派生が可能な外来語(15語)について詳しく考察した。その際、これらの外来語が今回の調査においてのみ偶然現れなかったのかどうかを確認するため、日本の「現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言(以下、BCCWJ)」(国立国語研究所)と韓国の「Trends21코퍼스(以下、Trends21)」(고려대학교 민족문화연구원)を用い、2000年度の全国紙における用例を検索した¹⁰⁾。また、場合によっては新聞以外の場面で使用できる可能性も考えられるため、ブログやインターネットなどにおける使用についても調査した。特に、語幹となる部分が外来語であるかどうかということと、語幹に後続する部分が基本的なマーカーの「する」「하다」であるかどうかという二つの基準により、大きく4つに分類した。その結果をまとめたのが、以下に示されている〈表6〉である。

10) 日本語は2000～2009年の『朝日新聞』『読売新聞』『毎日新聞』『産経新聞』であり、韓国語は2000～2013年の『동아일보』『조선일보』『중앙일보』『한겨레신문』である。ただし、「Trends21」はどの新聞社のいつの記事であるかということについては情報提供がされていないため、以下で明確な出典を明記することはできなかった。

〈表6〉 日本語又は韓国語でのみ動詞派生可能な外来語¹¹⁾

区分	日本語	韓国語
グループA	オーダー、カウント、カット、 ガード、キック、キャンペーン、 コミュニケーション、コメント、 ゴルフ、シャンパー、ジャンプ、 シュート、スクラップ、スケッチ、 スタート、ストップ、タッチ、デート、 デュエット、ハイキング、バック、 ビジネス、パーティー、パレード、 プリント、プラス、ピッチング ラウンド、リース、レポート (30)	노크, 더빙, 마사지, 마케팅, 샤워, 세일, 쇼핑, 컨트롤, 키 스, 트레이드, 헤딩 (11)
グループB	ブロック (1)	골인 (1)
グループC	カーブ、コート、ゴール、 ダイヤル、ランキング、リレー、 ロック、バンク (8)	코치 (1)
グループD	エントリー、ショット、スリップ、 セット、ミス (5)	로비 (1)

()の数字は、外来語数を示す。

グループAに属している外来語は、今回の調査では見られなかったものの、実際には日本語の「する」又は韓国語の「하다」を添えて動詞として使用可能な外来語である。例えば、(8)「スクラップ」と(9)「ジャンプ」に「する」を添えた形は、韓国語の新聞でも(10)「스크랩」(11)「점프」に「하다」を添えた形で実際に使用されている。また、韓国語の(12)「키스」に「하다」を添えた形は、(13)のように日本語でも動詞として使用できる。

- (8) 船乗りから読み捨ての雑誌をもらい、面白い「お話」をスクラップする「用務員さん」が出てくる。
(2002年08月04日、毎日新聞)
- (9) 毎年約4500人のジャンパーを集めるこの施設の前で、「当選したらジャンプする」と観光PRの率先垂範を訴え、激戦を制した。
(2002年04月22日、毎日新聞)
- (10) 또 신문 사설을 스크랩해주고 읽게 한 뒤 두 줄로 요약시켰다.
(Trends21)
- (11) 그 결과 98년 49위에 머물렀던 웹의 평균 퍼팅수 랭킹은 지난해 30위로 점프했다.
(Trends21)
- (12) "라틴계 사람들의 피는 뜨겁다. 그들은 낯선 사람을 만나도 금세 함께 춤추고 키스 할만큼 열정적이다. 나는 그런 라틴이다."
(2000年11月05日、동아일보)
- (13) 브라질東部オリンダで、カーニバルの中、男たちが通りすがりの女性にキスする習慣ができ、市当局が取り締まりに乗り出した。
(毎日新聞、BCCWJ)

11) 韓国語における「드라마」の一例は、「드라마하면서 내가 우리 연지를 가졌잖아」である。この場合、使用不可能ではないが、一般的に広く使われるとは判断しにくいいため、調査対象から省いた。

しかし、これらのなかには今回の調査で偶然現れなかったものの他に、文体上のスタイルによってより口語的な場面で用いられているような外来語も含まれている可能性がある。ただしその検証のためには、日韓の母語話者を対象とした調査が必要であるが、これについては別稿にゆずりたい。

一方、グループBに属している外来語は、外来語の後ろに「する」や「하다」を添えて動詞化する点では共通するが、語幹となる外来語の形態が異なる外来語である。例えば、日本語の(14)「ブロック」と韓国語の(15)「골인」がそれである。(14)「ブロックする」を韓国語に直訳すると「블록하다」となり、不自然な韓国語になる。その代りに、韓国語では(16)「블로킹」を用いるのが自然である。また、(15)「골인하다」を日本語に直訳すると「ゴールインする」となり、(14)と同様に不自然な日本語になる。日本語では(17)「ゴールする」の「ゴール」が一般的に用いられる。これらのことから、各言語がそれぞれ違う形として外来語を受け入れた様子が分かる。

- (14) 決勝点となった後半36分の岡崎慎のヘディングも、クロスを味方がブロックして角度が変わり、ピタリと頭に合ってしまった。(2003年01月06日、毎日新聞)
- (15) 안양은 전반 37분 김동진이 드리블하는 순간 울산 클레베르의 백태클로 페널티킥을 얻어 정조국이 침착하게 골인시켜 동점을 만들었다. (2003年06月30日、동아일보)
- (16) 세트 스코어 2-2에서 마지막 5세트 14-11. 현대자동차가 1점만 보태면 경기가 끝나는 상황. 삼성화재 신진식이 가볍게 쳐 넘긴 공을 박종찬이 튀어오르며 자신있게 블로킹했다. (Trends21)
- (17) 겡크は後半22分に3-4と勝ち越されたが、30分、34分とF Wソングが連続ゴールし逆転した。(2003年02月09日、毎日新聞)

なお、グループCには日本語又は韓国語において片方のみ「する」や「하다」以外のマーカーを使用するものが属している。一部の例を挙げると、日本語では(18)「ランキング」(19)「リレー」などにそのまま「する」を付けて動詞にすることができるが、韓国語では(20)「랭킹」(21)「릴레이」に「을」格を挿入したうえ、それぞれに「매기다」「펼치다」を付けて使用する。その反面、韓国語では「코치」に「하다」を付けて用いるものを、日本語では「コーチする」ではなく「コーチを受ける」のような形で用いる。

- (18) (省略) 医療・健康分野のサービス産業活性化策として、民間企業が医療機関をランキングする「医療番付」、患者に適した医療機関を紹介する「医療仲人」などの導入を提言した。(2003年03月13日、毎日新聞)
- (19) 同年秋の文化祭で生徒や教員がリレーしながら校庭を一昼夜走り、見物にきたO Bや近隣の住民らにも募金を呼びかけた。(2003年04月17日、毎日新聞)
- (20) 현재 세계순위는 자산 규모로 랭킹을 매겨왔다. (Trends21)
- (21) 전남대 사이트에선 교직원이나 학생들이 돌아가면서 칭찬 릴레이를 펼치고 있다. (Trends21)

最後にグループDには、外来語そのままでは日韓のある一つの言語において同様の意味を表すことが不可能であり、且つ「する」や「하다」も付かないものが含まれている。別の言い方をすると、意味は

同様であるが形態は全く違うということである。日本語の場合は次に見られるように(22)「ミスする」(23)「セットする」に用いられるが、韓国語で同じ意味を表すためには「실수하다」「설치하다」が用いられる。なお、韓国語は一般的に(24)「로비하다」のような形で使用できるが、日本語では「取賄を渡す」のような全く違う形として使用するのが普通である。具体例は、以下を参照されたい。

- (22) 前半10分には、右サイドの市川（清水）からのクロスを相手DFがクリアミスしたのを見逃さなかった。 (2002年03月28日、毎日新聞)
- (23) テレビ電話は、パソコンに専用ソフトをセットし、カメラとマイク、ヘッドホンで通話する。 (2002年08月07日、毎日新聞)
- (24) 불행하게도 감독당국 출신 시중은행 감사들은 매년 은행 정기검사철에는 금감원에 상주하며 '로비'하는 관행을 버리지 못하고 있다. (2000年03月24日、동아일보)

これらを踏まえると、日本語において動詞を作る「する」は同じ役割を果たす韓国語の「하다」に比べ、そのカバーできる範囲が微妙に違うように見える。この点については、もう少し検討すべきところではあるが、両言語における表現の仕方に違いがあり、特に韓国語は日本語に比べて名詞として外来語を多く使用する傾向があると言える。

5. おわりに

5.1 本稿の結論

本稿では、日本語と韓国語の各言語体系における外来語の受け入れ方に着目し、新聞における日韓共通外来語の使用実態を計量と文法という二つの観点から分析した。それにより、各言語ならではの共通点や相違点を明確にした。その結果、以下のような知見を得た。

第一に、計量的側面からは日韓共通外来語に限り、外来語全体に対する出現頻度には日本語と韓国語の違いがあまりないものの、個別外来語の出現頻度では韓国語における外来語使用が上位の一部に集中しており、使用される外来語に偏りが大きかった。出現頻度上位30に占める割合を見ると、日本語が約33%に過ぎない反面、韓国語は約45%を占めていた。

第二に、文法的側面から見ると、日韓両言語における外来語はそのほとんどが名詞として使われており、動詞、形容動詞(韓国語は형용사)、副詞の順に少なくなる点では共通していたが、一つの外来語が複数の品詞に跨って使用できる割合が日本語のほうで約2倍近く高い点で異っていた。また、両言語とも「名・動」として使用される外来語であっても、日本語において動詞として使用される割合が高いことが分かった。すなわち、名詞として入ってきた外来語が他の品詞にも派生し、その形が実際の新聞でも多く使用されていることを意味する。

第三に、日本語又は韓国語のいずれかの言語においてのみ、動詞派生が見られた外来語をもとに語幹と後続部分を考慮し分類した結果、日本語では「する」を付けて動詞化できるが、韓国語では「하다」以外のものが付く外来語が多いことを明らかにした。このことから、両言語における表現の仕方に違いがあり、特に韓国語は日本語に比べて名詞として外来語を多く使用する傾向があると言える。

5.2 今後の課題

今後の課題としては、本稿で明らかになった外来語の使用実態における違いの原因が挙げられる。これには、言語外的要因、例えば言語政策のような社会的な背景や、言語内的要因、例えば各言語における制約などが関係すると考えられるが、これについては更なる検討が必要であると思われる。また、更新の早い外来語が考察対象であるため、比較的最近のデータから外来語の使用傾向を考察したほうが望ましいと考えられる。

【参考文献】

- 강신항(2003) 「널리 쓰이는 외래어와 외국어」 『새국어생활』 13-4 국립국어원 pp.135-149
- 고영근·구본관(2008) 『우리말 문법론』 집문당 p.227
- 목정수(2005) 「일본어 형용사와 형용동사의 특성과 분포-한국어의 품사 체계와 관련하여-」 『한국일본어학회 제11회 학술발표회 논문집』 한국일본어학회 pp.139-146
- 飯野公一·恩村由香子·杉田洋·森吉直子(2003) 『新時代の言語学-社会·文化·人をつなぐもの-』 くろしお出版 p.132
- 北澤尚(2012) 「現代日本語における外来語の品詞性について」 『学芸国語国文学』 44 東京学芸大学国語国文学会 pp.1-13
- 金愛東(2007) 「西洋語起源の外来語受容に関する韓日両言語の対照研究」 『일본어문학』 32 한국일본어문학회 pp.3-22
- 吳瑛敬(2013) 「한·일 일간신문에 나타난 어휘 연구-사회면을 대상으로-」 『日本語教育研究』 25 韓國日語教育学会 pp.143-158
- 堀江薫·ブラシャントパルデジ(2009) 「認知類型論の観点から見た構文の連続性」 山梨正明(編) 『講座認知言語学のフロンティア5言語のタイポロジー-認知類型論のアプローチ-』 研究社 pp.27-135
- 森岡健二(1985) 「外来語の派生語彙」 『日本語学』 4-9 明治書院 pp.43-53
- 梁敏鎬(2008) 『外来語の受容に関する日韓対照研究』 東北大学大学院文学研究科博士論文 p.1

【用例出典】

【辞書】

- 연세대학교 언어정보연구원 편(1998) 『연세한국어사전』 두산동아
- 北原保雄編(2002) 『明鏡語国辞典』 大修館書店

【新聞】

- 국립국어원 동아일보(2001-2003)
- (<https://ithub.korean.go.kr/user/total/database/corpusManager.do> (検索日: 2017.11.09.))
- 毎日新聞社(2001-2003) 「CD-毎日新聞」 日外アソシエーツ

【その他】

- 日本国立国語研究所 「現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言」
- (<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search> (検索日: 2019.12.08.))

고려대학교 민족문화연구원 전자인문학센터 「Trends21 코퍼스」
(<http://corpus.korea.ac.kr/> (檢索日: 2019.12.08.))

〈 요지 〉

일한 신문에 나타나는 공통 외래어의 사용 실태에 대하여

- 계량적 · 문법적 측면으로부터 -

본고에서는 일본어와 한국어의 각 언어 체계에서의 외래어 사용 실태를 밝히는 것을 목적으로 신문에 나타난 일한 공통 외래어 사용 실태를 계량과 문법의 두 가지 관점에서 분석하였다. 그 결과 다음과 같이 두 언어 간의 공통점과 차이점을 밝혀냈다.

(1) 계량적 측면에서 일한 공통 외래어의 전체 출현 빈도는 큰 차이가 없지만, 개별 외래어의 출현 빈도에서는 한국어의 상위 외래어가 전체에서 차지하는 비율이 일본어에 비해 높게 나타났다. 이는 일본어가 한국어보다 다양한 종류의 외래어가 두루두루 쓰이고 있음을 의미한다.

(2) 문법적인 측면에서 보면 하나의 외래어가 여러 개의 품사로 사용되는 비율이 일본어가 한국어보다 약 2배 가까이 높았다. 또한, 두 언어에서 모두 명사 및 동사로 사용되는 외래어의 경우에도 일본어에서 동사로 사용되는 비율이 높게 나타났다. 즉, 명사로 들어온 외래어가 다른 품사로 파생되어 실제 신문에서도 많이 사용되고 있다는 것을 나타낸다.

(3) 일본어 또는 한국어 중 한 언어에서만 동사로 파생된 외래어를 대상으로 어간과 후속 부분을 고려해 분류한 결과, 일본어는 대부분 "する"를 붙여 동사화 할 수 있지만, 한국어에서는 "하다" 이외의 후속어가 붙는 경우가 많았다. 이를 통해, 양 언어의 표현 방식이 다르고 특히 한국어는 일본어보다 명사로서 외래어를 많이 사용하는 경향이 있다고 할 수 있다.

논문분야 : 형태론

키워드 : 외래어, 신문, 출현 빈도, 품사

■ 임정수(林廷修)

筑波大学 一貫制博士課程

jslim0216@gmail.com

- 投稿日 : 2019년 12월 31일
- 審査開始 : 2020년 2월 5일
- 審査完了 : 2020년 2월 19일
- 掲載確定 : 2020년 2월 28일